

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、利用者が自立し、生活して行くことをホームの柱としています。利用者の関係性の継続、地域での生活を継続することにより生活することへの意欲を引き出し、介護者に依存した生活でなく、自立した生活を取り戻すことが大切と考えています。個々の利用者が、出来ることは自分ですることにより今までの生活を取り戻して行くことが大切だと思います。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	私たちのグループホームでは、理念を全職員が共有することを最も重要なことと考えています。月2回の勉強会・カンファレンスでの話し合いは、全ての利用者の「尊厳」を守り、その人が最期まで人間としての生活を全うできるにはどのような生活をして行くことが良いのかを議論の中心にしています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族が訪問された時に、「日常の生活」をお話すると共に、今私たちがどのような考えで支援をしようとしているのかをお話、協力依頼をしています。また、地域の皆様には、新聞を回覧で回してもらったり、イベントの案内を配布してホームに来て頂き、一緒に楽しんでいただくことにしています。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩時間には、であった地域の肩への挨拶やご近所の「牛小屋」の掃除を手伝ったり、餌をやったりします。、地域の方々と入居者が気軽に話をする機会を多くし、散歩の途中、畑で出来た野菜をいただくことも多くなりました。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	部落で開催される祭りでは、獅子舞がホームに来てくれますし、本祭りには、神社にお参りに行き、行事に参加させていただきます。また、盆踊りには、利用者も参加いたします。地区の保育園の遊戯会や敬老の会には保育園を訪れて一緒に歌を歌ったり、ゲームをしたり楽しいひとときを過ごしてきます。(定例交流会を開いています。)	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>下呂市社協の介護家族の会で「認知症高齢者介護」勉強会、相談交流会でお話させて頂いています。中学校の職場体験、高校の実習を積極的に受け入れています。</p>		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価を職員全員に記入してもらい、職員の意見をまとめ自己評価表に記入しています。評価結果については、勉強会で報告し、改善していくことを具体的に検討し、実行しています。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>グループホームの生活を理解して頂き、地域での活動に参加させて頂くために、地域の皆様にホームでのイベントに参加していただくことを話し合ったりしている。(イベント開催の参加呼びかけを回覧板で回覧してもらう)</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護保険室や福祉課の担当者と連絡を取り、指導を受けたり、話し合いを行っています。また、介護保険室担当者がホームに訪問してくれる機会を多くしています。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員に利用者、家族の状況を把握しながら権利擁護や成年後見制度の情報提供できるようその都度話をしている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会を行い、「高齢者の虐待について」学ぶと共に、利用者に対するサービス向上に努めています。また、虐待を発見した場合は速やかに管理者に報告することを徹底しています。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所あるいは入所申込事には、ホームのケアに対する考え方を十分話し合い、利用者、家族に納得して頂き、入所後起こりうるリスクに関しても話をしています。重度化したときの対応、利用者・家族の考えを伺いながらホームの考え方もお話しています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の訴えを介護者が的確に把握し、個別の希望や訴えに即座に対応することに努めています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月々の請求明細を発送する際に、利用者の生活状況を担当する介護者が手紙を書き家族等に連絡している。また、家族が施設を訪れたときに担当者、介護責任者から報告し、家族の思いを聞き、ケアに生かして行くことにしています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から出た意見や不満については、業務日誌等で報告すると共に、全体の勉強会、カンファレンス等で話し合いを行い、運営に反映しています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会等で職員の意見や要望を聞いて、運営反映させている。又個別に話し合いをもつと共に時間をかけて話し合いをすることになっている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の意見に基づき、利用者の行動パターンにあわせ、夏は夕方に散歩に出かけられるように勤務者を多く配置しています。夜勤についても利用者の身体レベルにあわせ夜勤人数を増加しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの職員による介護が利用者にとって必要なことと思います。出来るだけ職員の移動がないようにと考慮しています。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>他のグループホームの見学や交流を行ったり、県主催の研修会、セミナー、グループホーム全国大会に職員を派遣し、1年間に1度はなにかの勉強会に職員が参加できるようにしています。参加し、学んだことをレポートしてもらい勉強会で報告してもらい全体のものとしてもらいます。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>飛騨地区連絡協議会が3ヶ月に1度開催されており、他の事業所と交流したり、情報交換をしている。ケアマネ交流会は、2ヶ月に1回実施しています。また、他のグループホームとの交流も行っています。</p>	○	<p>グループホーム同志の交流の機会を増やし、1日実習を行ったり、勉強会に参加しあったりすることでお互いにグループホームの質の向上を図っていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の疲労やストレスに気を配り、勤務軽減や休息の時間を考慮しています。職員間の人間関係を把握し、個別に話し合いを行っています。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員のレベルアップ考え、研修・セミナー等の参加を呼びかけたり、資格取得についても積極的に取り組みをしています。(勤務時間の調整を行ったり)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所希望があり、入所の時期になったとき、本人を訪問し生活状態、認知症の状態、本人の意向、家族の希望を事前に面談調査し、職員とも顔なじみになって頂き、不安なく入所頂けるようにしています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に家族との面談をし、家庭での介護状況、特に気を遣っていることや、注意を払っているところを教えて頂いたり、家族の意向を伺い、本人の意向との調整をするため参考としています。	○ ご家族にホームの運営方針、理念を十分理解してもらい、共に認知症について考えていける関係を気づいていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思いを聞きながら、すぐに対応できないことが多いため、ケアマネ等と連絡を取りながら、他の介護サービスと連絡を取ると共に、他の事業所を紹介しています。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、出来る限り本人、家族にホームを見て頂き、雰囲気や部屋を見て頂き、利用者に安心感をもって頂けるようにしています。	○ 事前にホーム通所して頂き、顔見知りの関係を作りながら入所してもらえるように考えていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側と介護される側という立場でなく、高齢者は人生の先輩であり、私たちと同じ立場にあり、「悲しみ」「喜び」「楽しみ」を共に味わい分かち合える人としてお互いに共同生活をする姿勢で接して行くことを意識しています。	

岐阜県 NPOグループホーム すずらんの木 (1階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者が通院する際、付き添って頂いたり、イベントに参加してもらえるように事前に連絡し、参加してもらうようになっています。	○	初期の段階から家族関係を知り、家族の感情や、利用者に対する思いを速く把握しながらご家族に働きかけていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の近況を出来る限り細かくお知らせしながら、ご家族の思いを話し合っています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参り等入った際にご近所やお友達を訪問しながら今までのお付き合いを継続できるようにしています。また、ご近所の方々がホームに立ち寄って頂くようにしている	○	住み慣れた家を空き家にせず、半日あるいは一日そこでゆっくり過ごしてもらうようにしたり、ご近所とのお付き合いを継続できるようにしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が、ソファー等で話をしていたり、お互いに居室訪問しているときはできるだけ職員は間に入らず、見守るようにしています。	○	利用者同士で、買い物に出かけたり、散歩に出かけるように働きかけて行きたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなられて退所される方がほとんどですが、家庭に戻られた利用者の方は、定期的に訪問し、家族関係がの中で悩んでいないか話を聞くことをしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを一方向的に作ることなく、ケア担当者が利用者の意見を聞きながらケアマネと一緒に作成しています。ケアカンファレンスに利用者にも参加してもらい共に考えています。	○ 利用者ご本人に積極的に参加してもらったり、ご家族にも参加して頂けるように働きかけて行きます。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にセンター方式の生活歴や家庭での生活に状況を書いてもらうようにしています。(センター方式の家族記入の文書を渡している。)	○ 利用者一人一人の生活歴を知ることにより、生活習慣を把握し、自立支援をして行くようにしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ホームの中心課題を「自立」に定めており、一人一人の出来ること、出来ないことを判断し、介護者がお互いに情報を共有しながら、支援の方法がバラバラにならないよう意思統一しながら介護しています。	○ 「自立支援」をもっと実践するために、利用者一人一人の状況把握を図って行きたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランを作成するに当たって、ご本人からどのような生活をして行きたいか、今やりたいことを聴き、ご家族の意見も伺いながら担当者とケアマネとでプランニングし、全体会議の中で、本人にも参加してもらい作成しています。	○ 今後、本人に参加して頂くことを継続しながら、ご家族にも呼びかけていぎにさんかしていきたいと思います。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングをしプランの見直しをすると共に、利用者の状態変化に応じ、かかりつけ医、家族とも相談し、プランを作成し直しています。	○ 定期的なモニタリングを自主的・積極的に行い、利用者の変化に対応できるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の勤務者が気づいたことを個々の利用者のケアプランに基づいてチェック出来るようにしています。(個々のケアプランを介護者が覚えていないので記述する際に一般的になりがち)	○	かいごしやが、利用者一人一人のケアプランを理解し、ケアプランに基づいた記録を心掛ける様にしたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の外泊・外出は自由にしてもらい、ご家族と一緒に過ごす時間を多くもつようにしています。(多機能制といってもグループホームでは、介護保険上は規制が多い)		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が、安心して地域で生活できるように警察や民生委員の方々との意見交換をしている。	○	もっと地域の施設やボランティアの協力呼びかけをしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者が買い物や外出する際に、移送サービスを利用したりすることがあります。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者、家族の必要に応じ、権利擁護の相談等支援センターに連絡しています。		

岐阜県 NPOグループホーム すずらの木 (1階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の日常的な健康管理や、ケアプランを作成する際の相談に乗ってもらったり、緊急時の24時間医療連携をしています。	○	訪問していただいている看護師さんや医師にも参加をしてもらいケアカンファレンスを開催していきたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医が地域にいないこともあり、かかりつけ医に紹介を受け受診をし、相談をしています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問してくれる看護師は皆顔見知りの方が来てくれていて、利用者も看護師も気軽に利用者の状態について相談したり、病気について質問したりすることが出来ます。	○	医学的なアドバイスを受けて、ケアカンファレンスに定期的に参加してもらい介護計画を共に考え作成していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院する際、かかりつけ医を通し早期退院が出来るように話をしたり、入院期間に職員が面会に行くようにしています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重篤な状態になったり、大きな病状の変化や生活状態の変化があった場合、ご家族とかかりつけ医、ホームと連絡し合い、週末についての取り決めを文章化し確認しています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者が重篤な状態になったときは、かかりつけ医が毎日診療(夜間の往診も含めて)することや、訪問看護の回数を多くし、ご家族にも泊まり込んで頂けるようお願いをしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までにホームから別の居所に移ることがありませんが、情報を速やかに提供します。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やカンファレンスにおいて利用者に対する言葉遣いやたいどについて話し合うと共に、利用者の情報を外に持ち出したり、外で話をしないように徹底しています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせた話をしたり、超えかけをしたり、意思表出出来る要するよう働きかけをすると共に、些細なことでも利用者の表情を読み取る努力をしています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に添って職員の配置を変更したり、外出希望等には即座に対応しています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の希望する行きつけの理容室や床屋さんに出かけていけるよう予約し、送り迎えをしています。		

岐阜県. NPOグループホーム すずらんの木 (1階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや後片付けは職員が中心にならないように、会話の中で働きかけを行いながら参加してもらっています。その中で、利用者同士で役割分担をして作業をしています。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	季節に合わせたおやつ作りをしたり、利用者の好きなものの希望を言ってもらい希望を取り入れています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用しトイレ誘導するようにし、時間を見計らい声をかけるようにすると共に食事やおやつに乳製品や繊維質のものを摂るようにしています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を3日に1回と決めているが、その日入浴したくない利用者もいるので日にちをずらし、利用者が希望する時間に入浴するようにすると共に、介助しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者それぞれの生活にあわせ休憩をしてもらったり、季節にあわせ布団を入れ替えたりしています。また、眠れない時は、温かい飲み物など飲みながら話を聞いたりしています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物、散歩、季節の行事等に参加してもらい様々に声かけをしたり、畑仕事やぞうきん縫いなど得意な作業をしてもらうようにしています。		

岐阜県 NPOグループホーム すずらんの木 (1階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や受診の際は自分で支払が出来る方には自分で払ってもらうようにしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物に出かけたり、喫茶店にモーニングに出かけたりと利用者の希望に添った外出支援を行っています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族も参加するイベントを行い、いっしょに温泉に入り食事してもらったり、家族がそばを食べに利用者と一緒に出かけたりしています。	○	家族と一緒に出かける機会を多くして行きたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきや手紙をかいて、ポストまで出しに行っています。孫達からもバースデーカードが送られてきたりしています。家族へ電話をかけるときは、電話も自由にしてもらっています。	○	ご家族からの電話が少ないので働きかけていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を定めず、都合の良い時間に訪問して頂き気軽に立ち寄って頂けるような雰囲気作りを心掛けています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスや勉強会で拘束について学習したり、議論しながら職員の意思統一を図っています。		

岐阜県. NPOグループホーム すずらんの木 (1階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は玄関の鍵も窓も全て開放していますし、自由に外出もしていただいています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜勤者は、定期的に巡回し、確認しています。夜間入眠しているときは声をかけずに確認しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者のレベルに合わせて、危険なものか、そうでないか判断しながら室内の整理をしたり、職員同士の連絡を密にしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクの高い利用者には、特に注意ながら最後まで行動を確認するようにしていますし、事故等が発生した際は、事故報告書で報告し、職員全体のものにすると共に「どうすれば事故を防ぐことができるのか」職員全員で話し合いをしています。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急処置の講習会に職員が参加したり、その講習を勉強会で報告をしてもらい、学習しています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の備蓄を行うと共に、避難経路の確認や、避難訓練を行ったりしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状況に応じて、ご家族と今後起こりうる状態についてお話すると共に確認出来ることについては文書で確認しています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の日常的に配慮すると共に少しの変化にも即座に対応すると共に、かかりつけ医の往診をお願いしたり、かかりつけ看護師に状態を確認してもらうようにしています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の処方の変更になったときには、その理由や、どういふ薬が処方されたか薬剤師に話を聴いたり、またそのことを職員全員に周知することを行っています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者一人一人の排泄パターンをチェックし、周期を確認すると共に便秘状態に応じかかりつけ医に指示をもらうようにしています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	モーニングケア・イブニングケアをしっかりと行うと同時に毎食後に口腔ケアを利用者に促しています。	○	歯科医の往診を依頼し、ケアの指導を受けてゆきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かかりつけ医に月1回血液検査をして頂き、月1回の体重測定を実施しながら食べる量の調整をし、栄養バランスを考えています。また、夏期は、水分量を多めにとってもらうようにしています。	○	栄養士に定期的に指導を受けるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者の集団予防接種を行うと共に、インフルエンザ罹患者の隔離をお願いしたり、手洗い、うがい等に気を配るようにしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食調理したものを摂取するようにすると同時に、生ものを調理する際には、用具の消毒に細心の注意を払っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	鉢やプランターに花を植え、利用者の方々にお世話をして頂いたり、雑草駆除をして頂いたりし、自由に出入りして頂いています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご飯の準備をする音や、臭いで居室にいた利用者の方々が、部屋から出てきたり、盛りつけをしたりしています。また、よもぎなどを散歩しながら採ってきて「よもぎ餅」を作ったりしています。	○	利用者の状態に合わせ、炊事をして頂いたり、一部の入居者に作業が偏らないように配慮して行くことを考えていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内の空きスペースに飲み物を置き、自由に使ってもらい、コーヒーや紅茶等、思い思いに飲みながら話をしたり、気の合う者同士がこそこそ話やお菓子を持ち寄り話をしていきます。	○	職員が声をかけなくても、利用者が自主的に行えるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族に居室内の配置や飾り付けは自由にしてもらっています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気候の良い日などに窓を開放し、布団を干したり、日向に出て日光浴をしたり温度調整や換気には気を付けています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせ施設内の整備を考え、危険がないように整理整頓すると共に、手すり野市を低めに取り付け、浴室に手すりや設置したり自立した生活が出来るようにしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の状態について日常的に情報交換し、状態の変化にあわせ対応を考えて、状態の変化が著しい時はすぐに、担当者、ケアマネが中心になりケアプランを変更すると共に、全体で議論しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に畑や鞆を作り利用者が手入れしたり、収穫をしたりしています。また、玄関には椅子を置き夕涼みをしたり楽しんでいます。		

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)